

企画展 上野駅と猪熊弦一郎の《自由》

2026年3月1日(日)－6月28日(日)

上野駅の猪熊弦一郎による壁画《自由》が修復を終え、再び公開



猪熊弦一郎 《自由》 1951年 撮影：木奥恵三(2025年2月)

展覧会名	上野駅と猪熊弦一郎の《自由》
会期	2026年3月1日(日)－6月28日(日)
休館日	月曜日(ただし5月4日は開館)、5月7日(木)
会場	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 3階展示室C、2階展示室A

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 / 公益財団法人ミモカ美術振興財団

担当キュレーター：古野華奈子 広報担当：佐伯美帆、谷村無生

〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1

TEL 0877-24-7755 FAX 0877-24-7766

E-MAIL press@mimoca.jp URL www.mimoca.jp



令和7年度日本博2.0事業(委託型)



開催趣旨



《自由》修復中のJR上野駅グランドコンコース 撮影：木奥恵三(2025年6月)

置かれた「『自由』を修復しています」という横断幕が意味深長とSNSで話題になり、壁画自体も注目されました。

《自由》の修復を含め、現在リニューアル工事が進行するJR上野駅グランドコンコースでは、クリエイティブユニットSPREADが《自由》から採集した色彩を現代的にアレンジした色の組み合わせ「フリーダムカラー」を用いて空間全体の調和を図る計画も進んでいます。

本展では、上野駅の壁画《自由》に焦点を当て、その成り立ちから現在までをご紹介します。《自由》というタイトル、「絵画は独占するものでなくより多くの人々を喜ばせ、みちびくもの、多くの人々のためになるべきもの」という猪熊の言葉、それぞれに込められた画家の思いを再考する機会となれば幸いです。



参考：真田将太郎氏によるX投稿
©真田将太郎

本展の見どころ

上野駅と壁画《自由》の歩みをたどる

1883年に開業し長い歴史を持つ上野駅と、1951年に制作され「北の玄関口」の象徴となった猪熊の壁画《自由》。上野駅の歴史を年表で紹介するとともに、壁画《自由》が駅の一部としてどのように関わってきたのかをたどります。

壁画《自由》のスケールを体感する

スケール感を体感するため、幅約27メートル、高さ約5メートルに及ぶ壁画《自由》の外枠を、展示室の壁に原寸大で型取りします。あわせて、猪熊が北国の風物をモチーフに描いた壁画の一部を原寸大写真で展示します。

壁画《自由》の修復作業の現場を紹介

三度目の大規模修復で行われた、普段は目にする事のできない緻密な修復作業の様子を、写真や実際に使用された道具とともに紹介します。

「フリーダムカラー」による空間全体の調和

クリエイティブユニットSPREADが壁画《自由》から採集した色彩「フリーダムカラー」を用いて、空間全体の調和を図る計画を紹介します。

展示構成

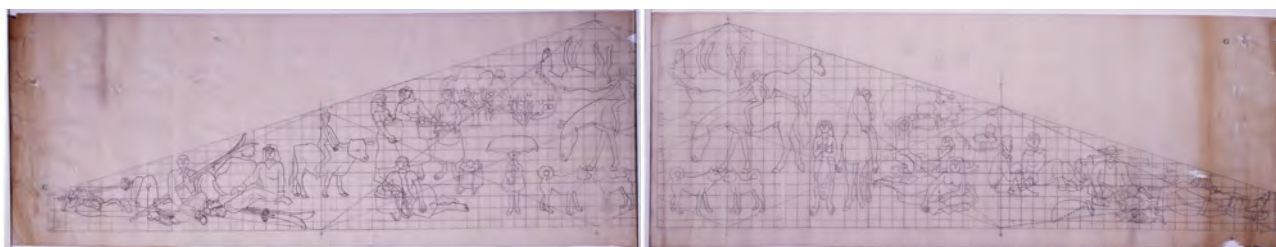
1章. 上野駅について

上野駅は、1883年(明治16)に開業し、2023年(令和5)に開業140周年を迎えました。長い歴史を持つ、東京を代表する駅の一つで、東北や北陸方面行きの列車が発着する東京の「北の玄関口」として親しまれてきました。多くの人が行き交う交通の要所でありながら、周辺には自然豊かな上野恩賜公園や多様な文化施設、古い町並み、情緒あふれる下町文化が広がっています。

今展では、上野駅の歴史を年表でたどり役割や特徴を紹介するとともに、その歴史に含まれる猪熊の壁画《自由》が駅の一部としてどのように歩んできたのかを概観します。

また、東日本旅客鉄道株式会社の協力により、同社が製作しJR 上野駅構内で上映していた映像《上野発の名列車》も特別に展示し、上野駅の魅力に迫ります。

2章. 壁画《自由》について



猪熊弦一郎 《自由》原画 1951年

壁画《自由》が制作された経緯、当時の制作の様子、絵に込められた作者の思いなどを下絵や資料でご紹介します。

また、幅約27メートル、高さ約5メートルに及ぶ壁画の大きさを体感できるよう、壁画の外枠を原寸大で展示室の壁に型取り、そこに絵の一部を原寸大写真で再現します。

さらに、別の壁に一色で塗りつぶされたもう一つの原寸大の枠に、会期中の関連プログラムを通して、参加者が少しずつ線や色を加えていく予定です。

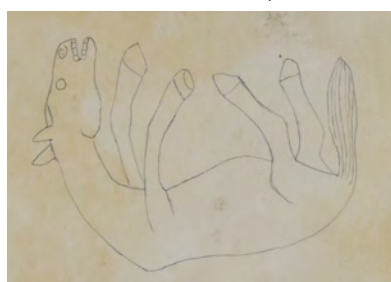
*関連プログラムを開催予定です。詳細は決まり次第お知らせします。



1



2



3



4

1,2: 修復中の《自由》(部分) 撮影: 木奥恵三(2025年6月)
3,4: 猪熊弦一郎 《自由》下絵 1951年

展示構成

3章.これからの上野駅と壁画《自由》

現在、JR上野駅グランドコンコースでは、大規模なリニューアル工事が進行しています。そのなかで、壁画《自由》に関わるプロジェクトを2つ、ご紹介します。

①三度目の大規模改修

小さなカンヴァス画に施すのと同じ緻密で丁寧な修復作業が、巨大な壁画に対して半年以上かけて行われました。作業を担った「有限会社修復研究所二十一」は、前回、2002年の修復も手がけています。



左, 右: 《自由》修復の様子 撮影: 木奥恵三(2025年6月)

有限会社修復研究所二十一

1972年創立。全国の美術館、博物館、個人等が所蔵する油彩画、水彩画、版画、デッサン、さらにこれらのカテゴリーに含まれない作品まで、多岐にわたる作品の修復を手がける。猪熊弦一郎作品の修復も数多く行っており、2008年には慶應義塾大学学生食堂の壁画《デモクラシー》の修復も担当した。

②フリーダムカラー

空間全体の調和を図るために、クリエイティブユニット「SPREAD」が《自由》から採集した色彩を現代的にアレンジした色の組み合わせ「フリーダムカラー」。その制作プロセスをご紹介します。



SPREAD 《自由》の色彩の採集(1回目) 2024年



SPREAD 《UENO FREEDOM COLOR》 2024年

SPREAD

2004年に山田春奈と小林弘和が立ち上げたクリエイティブユニット。「あらゆる記憶を取り込み『SPREAD=広げる』クリエイティブを行う」ことをモットーとし、グラフィック、プロダクト、展示などのデザインやディレクションを手がける。2025年、四国村ギャラリー(高松)において「猪熊弦一郎 Form, People, Living 身の回りにある、秘密と美しさ」展のディレクションを担当。

開催概要

展 覧 会 名	上野駅と猪熊弦一郎の《自由》
主 催	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
協 力	東日本旅客鉄道株式会社、SPREAD、有限会社修復研究所二十一
会 場	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 3階展示室C、2階展示室A
会 期	2026年3月1日(日)－6月28日(日)
開 館 時 間	10:00－18:00(入館は17:30まで)
休 館 日	月曜日(ただし、5月4日は開館)、5月7日(木)
観 覧 料	<p>一般 1,500円(団体割引1,200円、市民割900円) 大学生 1,000円(団体割引800円、市民割600円) 高校生以下または18歳未満・丸亀市内に在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料</p> <p>＊同時開催の常設展「猪熊弦一郎展 20歳から90歳まで」の観覧料を含みます。 ＊団体割引は20名以上の団体が対象です。 ＊市民割は丸亀市民が対象です。チケットご購入時に証明する書類(運転免許証、保険証など)のご提示が必要となります。団体割引を含み、他の割引との併用は出来ません。</p>

同時開催の常設展

「猪熊弦一郎展 20歳から90歳まで」

会場：2階展示室B

チケット購入案内

本展の観覧券は、JR東日本が運営するオンラインチケット販売サイト「JRE MALLチケット」でもお求めいただけます。販売開始日が決まり次第、同サイトにてご案内いたします。

JRE MALLチケット <https://event.jreast.co.jp/>

—— 関連プログラム

キュレーター・トーク

本展担当キュレーター(古野華奈子)が展示室で来館者に見どころをお話しします。

日時：2026年3月1日(日)、4月5日(日)、5月3日(日)、6月7日(日) 各日14:00 -

参加料：無料(別途、本展観覧券が必要です)、申込不要

親子でMIMOCAの日

高校生以下または18歳未満の観覧者1名につき、同伴者2名まで観覧無料となります。

日時：2026年4月25日(土)、26日(日) 各日10:00 - 18:00(入館は17:30まで)

*その他関連プログラムは、開催が決まり次第、順次当館ウェブサイト等でお知らせします。

—— 出品作家プロフィール

猪熊弦一郎(いのくまげんいちろう)

- 1902年 香川県高松市生まれ。少年時代を香川県で過ごす。
- 1921年 旧制丸亀中学校(現 香川県立丸亀高等学校)を卒業。
- 1922年 東京美術学校(現 東京藝術大学)に進学、藤島武二教室で学ぶ。
- 1926年 帝国美術院第7回美術展覧会に初入選する。以後、1934年まで毎年出品し入特選を重ねる。
- 1936年 同世代の仲間と新制作派協会(現 新制作協会)を結成、以後発表の舞台とする。
- 1938年 渡仏、パリにアトリエを構える(～1940)。滞仏中アンリ・マティスに学ぶ。
- 1950年 三越の包装紙「華ひらく」をデザインする。
- 1951年 国鉄上野駅(現 JR 東日本上野駅)の大壁画《自由》を制作。**
- 1955年 渡米、ニューヨークにアトリエを構える。
- 1975年 ニューヨークのアトリエを閉じ、東京に戻る。冬はハワイで制作するようになる。
- 1984年 上野駅開業百周年記念として《自由》が初めて修復される。**
- 1989年 丸亀市へ作品1,000点を寄贈。
- 1991年 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館が開館。
- 1993年 逝去、90歳。
- 2002年 上野駅の大規模改修にあわせ、《自由》が修復される(2回目)。**
- 2025年 上野駅グランドコンコースのリニューアルにあわせ、《自由》の修復が始まる(3回目)。**



撮影：高橋章

広報用画像
について

以下のURLまたはQRコードよりご申請ください。
https://www.mimoca.jp/press/post_107/

